

| | | | | | | |
|--|---|---------------------------------|--|--|---------------------|--|
| 鶴岡工業高等専門学校 | | 開講年度 | 平成30年度 (2018年度) | 授業科目 | 地域コミュニティ学 | |
| 科目基礎情報 | | | | | | |
| 科目番号 | 0002 | | 科目区分 | 専門 / 必修 | | |
| 授業形態 | 授業 | | 単位の種別と単位数 | 学修単位: 1 | | |
| 開設学科 | 創造工学科 (機械コース) | | 対象学年 | 1 | | |
| 開設期 | 前期 | | 週時間数 | 1 | | |
| 教科書/教材 | 揃便プリント等を配布 | | | | | |
| 担当教員 | 薄葉 祐子, 正村 亮 | | | | | |
| 到達目標 | | | | | | |
| 1. 地域の基礎データ、産業、伝統、文化を理解することができる。 2. 居住する地域を話題に他者とコミュニケーションできる。 3. 居住する地域の特徴などを他者が理解できるよう表現できる。 | | | | | | |
| ルーブリック | | | | | | |
| | 理想的な到達レベルの目安 | | 標準的な到達レベルの目安 | | 未到達レベルの目安 | |
| 評価項目1 | 居住する地域の問題点や将来を考えることができる。 | | 地域の基礎データ、産業、伝統、文化を理解することができる。 | | 地域について、理解しようとしな | |
| 評価項目2 | 他者の発言を促すようコミュニケーションを誘導できる。 | | 居住する地域を話題に他者とコミュニケーションできる。 | | 他者とコミュニケーションできない。 | |
| 評価項目3 | 表現において、図表等を用いて、さらにわかりやすく表現できる。 | | 居住する地域の特徴などを他者が理解できるよう表現できる。 | | 他者が理解できるような表現ができない。 | |
| 学科の到達目標項目との関係 | | | | | | |
| 教育方法等 | | | | | | |
| 概要 | 居住する地域の面積、人口などの基本データや産業、伝統、文化、習慣などを知ると共に、それらを話題に他の学生とコミュニケーションする。 | | | | | |
| 授業の進め方・方法 | グループワークを主に、前後に基調講演、アイスブレイク、発表を実施する。グループワーク際は、ファシリテーターより助言をもらながら進める。 | | | | | |
| 注意点 | | | | | | |
| 事前・事後学習、オフィスアワー | | | | | | |
| 授業計画 | | | | | | |
| | | 週 | 授業内容 | 週ごとの到達目標 | | |
| 前期 | 1stQ | 1週 | ガイダンス WRAP: 元気回復行動プラン～ | 科目の内容や進め方を理解できる。 自分が元気であるために、自分自身でプランを作成する。 | | |
| | | 2週 | 学校探検 「中学校と違う新しい発見」をしてもらう。 グループで校舎内自由行動。新しく発見できた内容を作文で報告。 | 指示されたミッションを理解し、行動し、得た知識・知見を文章で表現できる。 | | |
| | | 3週 | 基調講演 地域の企業経営者 | 地域の産業や将来について理解できる。 | | |
| | | 4週 | 基調講演 学校長 | 講演内容を理解でき、理解した内容を文章で表現できる。 | | |
| | | 5週 | 地域課題⇒講演を聞いて、地域の課題を考える。 | 講演を聴講し、自分達が住んでいる地域の課題を理解する。 | | |
| | | 6週 | 地域課題⇒課題解決に関するディスカッション。 | グループ内でコミュニケーションを取り、課題解決に向けた議論ができる。 | | |
| | | 7週 | パネルディスカッション 各学科5年生が学科についてディスカッション⇒感想文 | 他者の会話を聞いてその内容を理解でき、文章としてまとめることができる。 | | |
| | | 8週 | 地域課題⇒各グループのアイデアを発表。 | 他のグループのアイデアを聴き、それに対して自身の考えを言える。 | | |
| | 2ndQ | 9週 | | | | |
| | | 10週 | | | | |
| | | 11週 | | | | |
| | | 12週 | | | | |
| | | 13週 | | | | |
| | | 14週 | | | | |
| | | 15週 | | | | |
| | | 16週 | | | | |
| モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標 | | | | | | |
| 分類 | 分野 | 学習内容 | 学習内容の到達目標 | 到達レベル | 授業週 | |
| 基礎的能力 | 工学基礎 | 技術者倫理(知的財産、法令順守、持続可能性を含む)および技術史 | 説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的な責任事項を説明できる。 | 2 | | |
| | | | 現代社会の具体的な諸問題を題材に、自ら専門とする工学分野に関連させ、技術者倫理観に基づいて、取るべきふさわしい行動を説明できる。 | 2 | | |
| | | | 技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を認識している。 | 2 | | |
| | | | 社会における技術者の役割と責任を説明できる。 | 2 | | |
| | | | 情報技術の進展が社会に及ぼす影響、個人情報保護法、著作権などの法律について説明できる。 | 2 | | |
| | | | 高度情報通信ネットワーク社会の中核にある情報通信技術と倫理との関わりを説明できる。 | 2 | | |

| | | | | | | | | |
|--|---|---------|--|---|--|---------------------------------|---|--|
| | | | 環境問題の現状についての基本的な事項について把握し、科学技術が地球環境や社会に及ぼす影響を説明できる。 | 2 | | | | |
| | | | 環境問題を考慮して、技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。 | 2 | | | | |
| | | | 国際社会における技術者としてふさわしい行動とは何かを説明できる。 | 2 | | | | |
| | | | 過疎化、少子化など地方が抱える問題について認識し、地域社会に貢献するために科学技術が果たせる役割について説明できる。 | 2 | | | | |
| | | | 知的財産の社会的意義や重要性の観点から、知的財産に関する基本的な事項を説明できる。 | 2 | | | | |
| | | | 知的財産の獲得などで必要な新規アイデアを生み出す技法などについて説明できる。 | 2 | | | | |
| | | | 技術者の社会的責任、社会規範や法令を守ること、企業内の法令順守(コンプライアンス)の重要性について説明できる。 | 2 | | | | |
| | | | 技術者を指す者として、諸外国の文化・慣習などを尊重し、それぞれの国や地域に適用される関係法令を守ることの重要性を把握している。 | 2 | | | | |
| | | | 全ての人々が将来にわたって安心して暮らせる持続可能な開発を実現するために、自らの専門分野から配慮すべきことが何かを説明できる。 | 2 | | | | |
| | | | 技術者を指す者として、平和の構築、異文化理解の推進、自然資源の維持、災害の防止などの課題に力を合わせて取り組んでいくことの重要性を認識している。 | 2 | | | | |
| | | | 科学技術が社会に与えてきた影響をもとに、技術者の役割や責任を説明できる。 | 2 | | | | |
| | | | 科学者や技術者が、様々な困難を克服しながら技術の発展に寄与した姿を通じ、技術者の使命・重要性について説明できる。 | 2 | | | | |
| | | | グローバルゼーション・異文化多文化理解 | グローバルゼーション・異文化多文化理解 | それぞれの国の文化や歴史に敬意を払い、その違いを受け入れる寛容さが必要であることを認識している。 | 2 | | |
| | | | | 様々な国の生活習慣や宗教的信条、価値観などの基本的な事項について説明できる。 | 2 | | | |
| | | | | 異文化の事象を自分たちの文化と関連付けて解釈できる。 | 2 | | | |
| | | | | それぞれの国や地域の経済的・社会的な発展に対して科学技術が果たすべき役割や技術者の責任ある行動について説明できる。 | 2 | | | |
| | | 分野横断的能力 | 態度・志向性(人間力) | 態度・志向性 | 態度・志向性 | 周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。 | 2 | |
| | | | | | | 自らの考えで責任を持つてものごとに取り組むことができる。 | 2 | |
| | | | | | | 目標の実現に向けて計画ができる。 | 2 | |
| | | | | | | 目標の実現に向けて自らを律して行動できる。 | 2 | |
| 日常生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。 | 2 | | | | | | | |
| 社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。 | 2 | | | | | | | |
| チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。 | 2 | | | | | | | |
| チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。 | 2 | | | | | | | |
| 当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。 | 2 | | | | | | | |
| チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。 | 2 | | | | | | | |
| リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。 | 2 | | | | | | | |
| 適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。 | 2 | | | | | | | |
| リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている | 2 | | | | | | | |
| 法令やルールを遵守した行動をとれる。 | 2 | | | | | | | |
| 他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。 | 2 | | | | | | | |
| 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果を認識し、技術者が社会に負っている責任を挙げることができる。 | 2 | | | | | | | |
| 自身の将来のありたい姿(キャリアデザイン)を明確化できる。 | 2 | | | | | | | |
| その時々で自らの現状を認識し、将来のありたい姿に向かっていくために現状に必要な学習や活動を考えることができる。 | 2 | | | | | | | |
| キャリアの実現に向かって卒業後も継続的に学習する必要性を認識している。 | 2 | | | | | | | |
| これからのキャリアの中で、様々な困難があることを認識し、困難に直面したときの対処のありかた(一人で悩まない、優先すべきことを多面的に判断できるなど)を認識している。 | 2 | | | | | | | |
| 高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業や大学等でのように活用・応用されるかを説明できる。 | 2 | | | | | | | |
| 企業等における技術者・研究者等の実務を認識している。 | 2 | | | | | | | |
| 企業人としての責任ある仕事を進めるための基本的な行動を上げることができる。 | 2 | | | | | | | |
| 企業における福利厚生面や社員の価値観など多様な要素から自己の進路としての企業を判断することの重要性を認識している。 | 2 | | | | | | | |
| 企業には社会的責任があることを認識している。 | 2 | | | | | | | |

| | | | | | |
|--|--|--|---|---|--|
| | | | 企業が国内外で他社(他者)とどのような関係性の中で活動しているか説明できる。 | 2 | |
| | | | 調査、インターンシップ、共同教育等を通して地域社会・産業界の抱える課題を説明できる。 | 2 | |
| | | | 企業活動には品質、コスト、効率、納期などの視点が重要であることを認識している。 | 2 | |
| | | | 社会人も継続的に成長していくことが求められていることを認識している。 | 2 | |
| | | | 技術者として、幅広い人間性と問題解決力、社会貢献などが必要とされることを認識している。 | 2 | |
| | | | 技術者が知恵や感性、チャレンジ精神などを駆使して実践な活動を行った事例を挙げることができる。 | 2 | |
| | | | 高専で学んだ専門分野・一般科目の知識が、企業等でどのように活用・応用されているかを認識できる。 | 2 | |
| | | | 企業人として活躍するために自身に必要な能力を考えることができる。 | 2 | |
| | | | コミュニケーション能力や主体性等の「社会人として備えるべき能力」の必要性を認識している。 | 2 | |

評価割合

| | 試験 | 発表 | 相互評価 | 態度 | ポートフォリオ | その他 | 合計 |
|---------|----|----|------|----|---------|-----|-----|
| 総合評価割合 | 0 | 0 | 40 | 30 | 30 | 0 | 100 |
| 基礎的能力 | 0 | 0 | 20 | 10 | 10 | 0 | 40 |
| 専門的能力 | 0 | 0 | 10 | 10 | 10 | 0 | 30 |
| 分野横断的能力 | 0 | 0 | 10 | 10 | 10 | 0 | 30 |